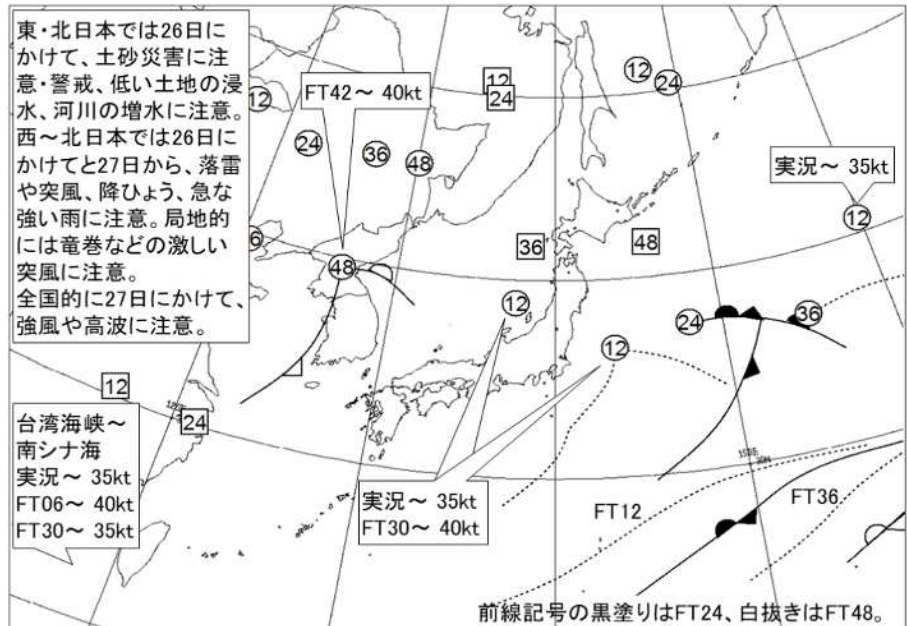


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5460m付近で-27～-30℃の寒気を伴うトラフが朝鮮半島にあり、その東側の日本海に低気圧。この低気圧に向かって下層暖湿気の収束域で活発に発雷を検知。一時非常に激しい雨を観測。トラフ西側の黄海では下層寒気の吹き出し雲が拡大中だが、その先端の対馬近海から九州北部地方でも発雷。これらの雲に混じるように衛星では黄砂が見えるが、09、12時の韓国は視程5～10kmが多い。
- ② 前線が南西諸島から伊豆諸島にのびている。500hPa5460m



主要じょう乱解説図

付近のトラフ前面で雲域が北に盛り上がり、紀伊半島沖の前線上に低気圧を解析。前線近くでは所により激しい雨を解析、雷を検知。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①②の2つのトラフは、26日にかけて本州付近を通過し、1項①の日本海の低気圧は26日未明に本州へ到達後不明瞭化、1項②の前線上の低気圧は25日夕方に伊豆諸島近海、26日にかけて発達しながら日本の東を東進する。上空寒気と前線や低気圧へ向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定で、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。東・北日本では26日にかけて雨が長引く日本海側を中心に、土砂災害に注意・警戒、低い土地の浸水、河川の増水に注意。西～北日本では26日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 26日から27日にかけて西～北日本は移動性高気圧に覆われるが、500hPa5400m付近の-30℃以下の寒気を伴うトラフに対応し、27日には前線を伴う低気圧が日本海を発達しながら北東へ進む。この低気圧を含む深い気圧の谷に向かう下層暖湿気が流れ込む影響で大気の状態が再び非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。西～北日本では27日午後から、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項①及び②の前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きく、また、南西諸島では大陸の高気圧の南縁で気圧の傾きが大きい状態が続く。このため、強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。全国的に27日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項〔量的予報等〕**
- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
 - ③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島・九州北部
 - 4、近畿・中国・九州南部・奄美・沖縄3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：東・西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。